

平成27年度 社会福祉法人 桐生会 高齢者総合福祉施設 桐生園 事業報告

【事業総括】

平成27年度の介護報酬改定は、介護保険料の上昇の抑制、介護サービスの利用者負担の軽減や介護職員の給与の引き上げなどを踏まえ、全体で表面上はマイナス2.27%となっていますが、内容は施設に付与することのできない介護職員処遇改善金のプラス1.65%が盛りこまれたもので、実際の報酬の適正化としてはマイナス3.92%という大変厳しいものとなりました。

施設の経営面から考え、今まで以上の介護報酬を得るため、施設サービス部では毎週火曜日に実施している施設部ミーティングで、各職種が集まり入居者の徹底した健康管理を行うことにより入院者の減少を図ると共に、見取り介護の積極的な取り組みによる入居率の向上に努めました。在宅サービス部では各事業所とも利用者数の増加を図るため、各居宅事業所に対し、桐生園の特徴あるケアや空き状況の情報発信で稼働率の向上に努めました。

平成27年度実施した事業の主なものについて述べます。

1. 信頼される施設の構築

入居者や利用者が安全に安心して暮らせる居場所にするには、職員の誰もが入居者や利用者のことを同じように理解し、尊厳を重視した統一のあるケアができることであります。そのためには更なる情報の共有を図るため個別援助計画書を充実させることに取り組みました。リスクマネジメントについて、事故報告書件数は前年比14%減少(811件→700件)できましたが、ヒヤリハット報告書件数は前年比24%減少(2435件→1849件)しました。再度ヒヤリハットに対する意識の向上を促すことが課題となりました。

2. 思いやりのある計画と実践

ケアプランと個別援助計画書の整合性を高めるため、ケアマネと各担当者は情報交換を行い、その人らしい暮らしを支えるケアはどうあるべきかを常に考えながら計画を整えました。その計画を実践して家族にも説明していますが、記録面についてはケアプランでやるべき介護とできる介護とは相違することの理解が混同しており、できる範囲でのケアプランと実施するサービスの記録の重要性が今後の課題となりました。

3. 人材の確保と育成

人材の確保の手段として、県社協主催の「福祉のお仕事 就職フェア」への参加、福祉系大学を中心とした大学訪問、マイナビ、ハローワーク求人登録をはじめ、従来の新聞折り込みだけではなく幅広い層の目に留まるようフリーペーパー、ネット媒体を積極的に活用しました。

桐生園ホームページをリニューアルし、採用情報やエントリーしやすい工夫を行いました。

また、27年度は特養に初めて言語聴覚士を採用し、訪問歯科と連携し嚥下機能訓練等を充実させ、デイサービスセンターには理学療法士を採用し機能訓練、居宅訪問を充実させました。

教育については、県社協、介護福祉士会等が主催する外部研修に101回の研修会に159名が参加しました。施設内研修は年間研修計画に基づき、毎月1回12回開催し、参加者延べ570名、1回開催平均47.5名の参加であるが、平成26年度に比べ参加者数168名は減少しています。どのような開催方法にすれば、多くの職員が参加出来るかは大きな課題であります。

ブラザーシスター制度の活用は、新人職員の定着だけではなく、先輩職員にとっても大きな糧になるとの感想が得られました。

平成27年度相談・苦情・要望の概要

平成27年度中に高齢者総合福祉施設桐生園に対しての相談・苦情・要望の概要は下記のとおりとなっております。

合計件数：10件	○特別養護老人ホーム桐生園	4件
	○桐生園ショートステイ	2件
	○桐生園デイサービスセンター	2件
	○桐生居宅介護支援事業所	1件
	○デイサービスセンターなのはな	1件

以上、桐生園苦情対策委員会で検討し改善策を講じ取り組みさせていただきました。また、当法人の第三者委員2名の方により、年2回苦情対策委員会の講じた対策や委員会機能のチェックを受けさせていただき、真摯に、ご利用なさる方の声に向き合い適正に対応されているとご評価いただきました。

今後とも皆様の貴重なご意見を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。